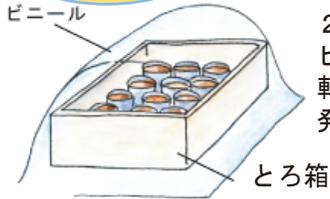


ピーマン栽培方法

種まき 2月中旬
苗植え 5月

1 苗選び



2月中旬、ポリ鉢にタネをまき、ビニールトンネルをかけ、軒下の暖かい日だまりに置き、発芽させる夜間は古毛布をかける

3号ポリ鉢

タネが隠れる程度に土をかける



本葉2枚で1株に間引く

500倍～600倍液肥を7～10日ごとに与える

種 2～3粒

畑土または赤玉土・腐葉土・バーミキュライト 3・1・1

苗を購入する場合少量なら購入の方が得策
節間の詰まった、病害虫に侵されていない苗を選び
一回り大きい鉢に鉢替えする

節間が詰まっている



鉢が小さいので鉢替えする

地上部と根のバランスが良い



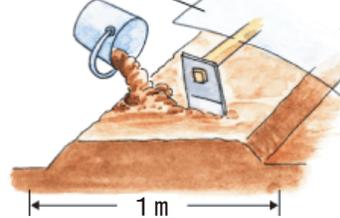
5号ポリ容器

本葉4枚くらいで鉢替え

2 畑の準備

日当たりと水はけのよい畑を選ぶ
あらかじめ、たい肥と苦土石灰をすき込んでおいた畑に、植えつえの約10日前に元肥をほどこし、畝を作る

透明ポリマルチ



荒起こし

堆肥 2～3kg/m²

苦土石灰・

有機石灰 100～120g/m²

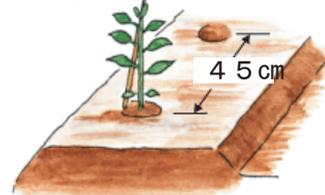
元肥

化成肥料 150g/m²

(N・P・K=8・8・8)

植えつけ

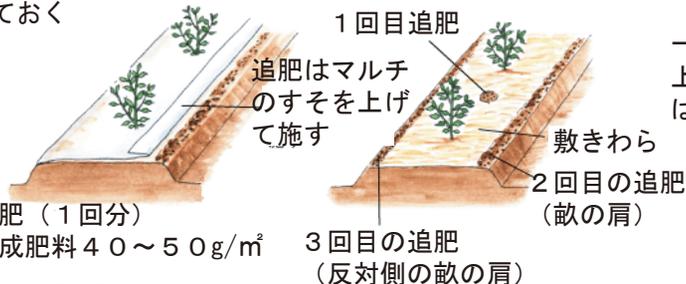
支柱



植えつけの前日に、苗にたっぷり水をやっておく。こうすると、植えつけの時の根鉢の崩れが防げる
5月上～中旬、地温が上がってから植えつける
根鉢の表面が見える程度の浅植えにし、たっぷり水を与える
株を落ち着かせてから支柱に誘引する

4 追肥・敷きわら

植えつけ後、活着したら1回目の追肥をし、以後20日ごとに化成肥料を追肥する。ピーマンの根は細く浅いため、畝が乾くと成育が悪くなる。乾燥を防ぐため、梅雨明け後、敷きわらをする。ポリマルチをしない場合、梅雨入り前に敷きわらをしておく



1回目追肥

追肥はマルチのすそを上げて施す

敷きわら

2回目の追肥 (畝の肩)

3回目の追肥 (反対側の畝の肩)

追肥 (1回分)

化成肥料 40～50g/m²

7 病害虫防除

疫病や灰色カビ病、アブラムシなどが発生したら、早めに防除する

8 収穫

開花後15～18日で収穫できる

5 摘心・整枝

わき芽は全部伸ばさず、一番花のすぐ下から出る勢いのよいわき芽を1本残し、それから下のわき芽をすべてかき取る



一番花から上のわき芽は放任

伸ばす

伸ばす

一番花

下のわき芽はかき取る

6 誘引

ヒモでつり上げるように誘引



ピーマンは枝が細く、伸びてくると横に広がるので、できるだけ枝を立てるように誘引する。込み合う枝葉は間引き、株全体の日当たりをよくする

ご相談・ご要望は  ガーデックワダ 電話 079-277-5665